

2. 構造モデル

図 2 に解析モデルを示す。また、図 3 に、各部材の断面形状を示す。

【主要な構面に対する構造模型を平面骨組にモデル化した際の解析モデル図(節点番号, 要素番号, 寸法(mm))を示すこと。また, 部材の断面形状・寸法を明記すること】

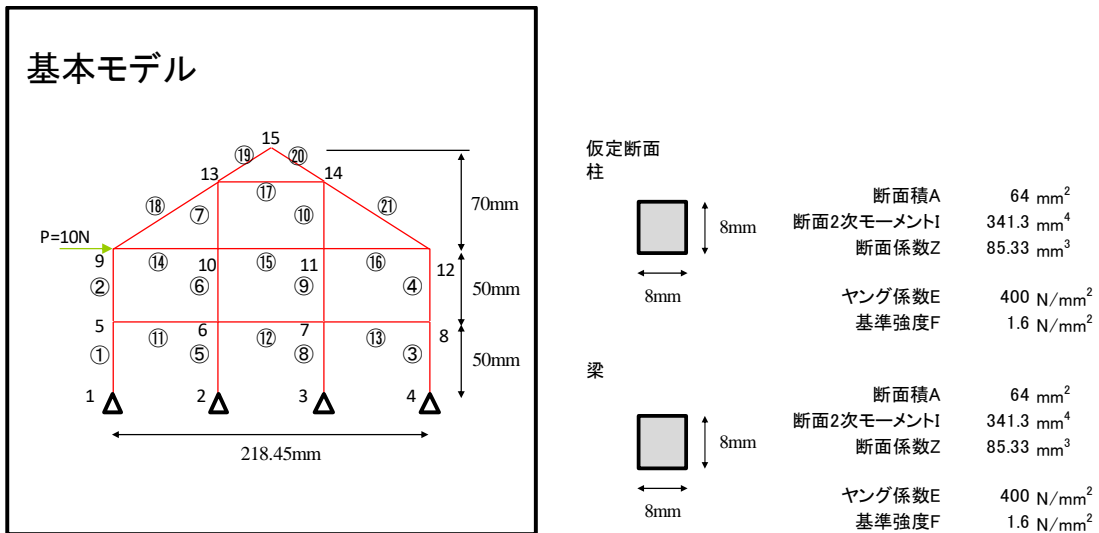


図 2 解析モデル

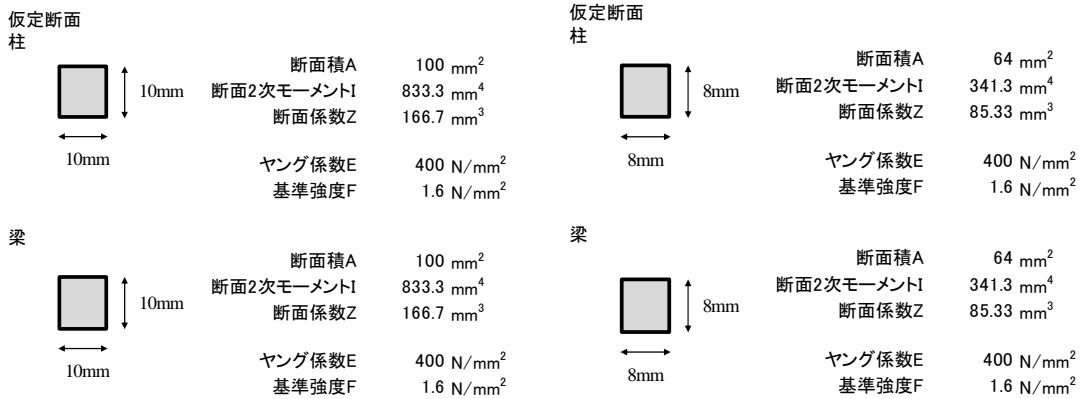


図 3 部材断面

断面形状が複数ある場合は、それらがどの部材なのかがわかるように工夫する

解析モデルの説明

【レンガ壁頂部に地震を想定した水平荷重 $P=10\text{N}$ が作用した際の架構の応力変形解析を行う。このとき、柱脚下端はピン支点とし、など、解析モデルの説明文を 100 字程度で説明する。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。(100 字)】

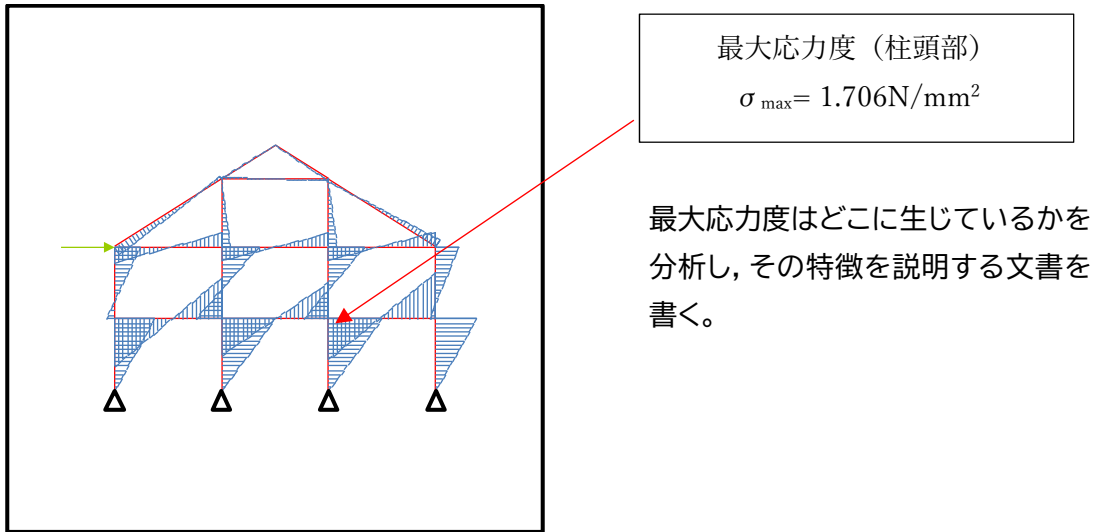


図 8 最大応力度の発生部位

各部材の応力度と応力度比の結果一覧を表 1 に示す。【表中、高い応力度比がわかるように数値の色を変えるなど工夫をする。】

表 1 各部材の最大応力度，応力度比一覧

要素番号	軸方向応力度 σ_N (N/mm ²)	曲げ応力度 σ_M (N/mm ²)	最大応力度 σ_{max} (N/mm ²)	応力度比 γ
1	0.067	1.251	1.317	0.823
2	0.015	0.800	0.815	0.510
3	0.093	1.275	1.368	0.855
4	0.043	0.729	0.772	0.482
5	0.012	1.666	1.678	1.049
6	0.003	1.163	1.166	0.729
7	0.001	0.274	0.275	0.172
8	0.038	1.668	1.706	1.066
9	0.030	1.130	1.160	0.725
10	0.030	0.269	0.299	0.187
11	0.005	0.922	0.922	0.945
12	0.003	0.725	0.725	0.725
13	0.009	0.924	0.924	0.924
14	0.113	0.511	0.624	0.390
15	0.052	0.437	0.489	0.306
16	0.007	0.476	0.483	0.302
17	0.023	0.059	0.082	0.051
18	0.014	0.289	0.303	0.189
19	0.001	0.045	0.046	0.029
20	0.000	0.046	0.046	0.029
21	0.040	0.253	0.294	0.184

単位のある数値は
単位を明記すること

数値を表示する場合の
有効数字は 3 桁~4 桁程

